

# 令和 8 年度 学校経営計画

## 1 学校教育目標

- ア 知性を高め、豊かな創造力を養う
- イ 健康で自律の精神に満ちた人間性を培う
- ウ 誠実で実践力のある人間形成をめざす

## 2 学校の特色

### ア 小規模校の利点を活かした教育

創立 76 周年を迎える本校は、全校生徒 47 名という特性を最大限に活かし、全教職員が全生徒の個性・志望・生活状況を深く把握したきめ細かな指導体制を整えており、生徒一人ひとりの安心感と確かな自己成長を支える基盤となっている。

### イ 全国募集による多様な集団づくり

全国募集 2 年目を迎え、全校生徒の約 17%にあたる 8 名が全国各地から入学し、寮生活を送っている。県内出身生徒と全国からの生徒が寝食や学びを共にすることで、日常的に多様な価値観に触れ、相互に刺激し合う豊かな集団づくりが進んでいる。

### ウ 特色ある教育活動とコミュニティ・スクールの深化

豊かな自然と世界文化遺産に隣接する本校は、五箇山地域の豊かな文化・郷土芸能を活かした「ふるさと教育」を推進するための最適な環境にある。地域連携の象徴的取組である「小中高合同運動会」での「こきりこ唄」演舞や、2 年次の台湾修学旅行での現地教育機関との交流を通じ、ふるさと教育の成果発信や異文化理解を深める活動を行っている。

部活動では、全国高総文祭において通算 3 度の最優秀賞を受賞するなど全国屈指の実績を誇る郷土芸能部や、全国大会常連のスキー部が、生徒に大きな達成感を与えるとともに学校の活性化に大きく寄与している。また、平成 30 年度に発足した五箇山ガイド研究会による世界遺産集落での観光ガイド活動は、生徒のコミュニケーション能力を養うとともに、地元の活性化を担う重要な活動となっている。

また、令和 4 年度に導入された学校運営協議会の枠組みを通じ、委員の方々から教育活動や課題解決に向けた助言をいただける体制にある。全国募集 2 年目を迎え、地域に支えられた温かな環境の中で、県内外の多様な背景を持つ生徒たちが日常的に接し、互いの存在を認め合いながら学ぶ土壌を有している。

## 3 学校の現状と課題

地域からの教育活動への期待は依然として大きい一方、生徒数の減少や広域からの入学に伴う地元出身生徒の割合低下により、本校独自の地域学習を「共創」の視点でアップデートすることが急務となっている。長年継続してきた地域学習が、地元生徒にとっての「慣れ」や「マンネリ化」にならないよう、総合的な探究の時間「五箇山探究」を核に、世界遺産としての普遍的価値を海外の保存事例と比較・分析したり、インバウンドの視点から地域の未利用資源を再発見したりするなど、地域体験をグローバルな視点から捉え直す。これにより、地域から「支援を受ける」形から、地域と共に教育を「創る」体制へと転換し、探究活動の質的向上と、生徒の多面的な視野の育成を目指す。

学習面においては、卒業学年以外における学習習慣の早期確立が課題である。生徒の背景や興味関心の多様化に対し、少人数指導の利点を最大限に活かしつつ、1 人 1 台端末を効果的に活用した「個別最適な学び」を推進する。基礎学力の確実な定着とともに、思考力・判断力・表現力を育成し、多様な進路希望に応じたきめ細かな指導と情報提供の充実を図る必要がある。

生活面では、生徒は概ね前向きに学校・寮生活を送っているものの、小規模校特有の人間関係の固定化による心理的摩擦や、同調圧力による個性の埋没には留意が必要である。全国募集生徒との交流や地域活動、多様な体験活動を通じ、異なる価値観を尊重し支え合うコミュニケーション能力を育むとともに、寮生活を含めた規則正しい生活習慣の定着を図り、生徒が心身ともに健康で安心して学校生活に臨める体制を整える。さらに、生徒一人ひとりが探究のプロセスや魅力ある学校づくりに当事者として深く関わり、自らの学びを社会や将来と結びつけていく主体性を育む。これらの取組を通して、「選ばれる学校」としての魅力を高め、学校のさらなる活性化を目指す。